

The Mille Has Times

#あきた民謡フェス

2023
SUMMER
VOL.5

拍手とライトに
若手輝く

「#あきた民謡フェス」出演7人の一言ほか | 舞台『ラビット・ホール』レビュー

7人、みずみずしく力強く

ポップスや歌謡曲も交え

#あきた民謡フェス

ミルハス×秋田魁新報社

「#あきた民謡フェス」が5月20日、ミルハス中ホールで開かれた。民謡の今とこれからの光を当てた連載「#あきた民謡」を紙面展開する秋田魁新報社とミルハスが共催した。県内の若手民謡歌手たちが歌謡曲やポップスも交えて歌う珍しい構成。みずみずしい歌声が約650人の観客を楽しませた。公演後、出演した7人にそれぞれ感想や手ごたえを聞いた。

7人は若手とはいえ、2021年度の日本民謡民舞全国大会での内閣総理大臣賞（浅野沙樹さん）や昨年度の郷土民謡民舞全国大会・民謡グランプリの部内閣総理大臣賞（倉田珠衣さん）をはじめ、それぞれ各種民謡大会で受賞歴のある面々。公演は「秋田大黒舞」で幕を開け、新民謡「秋田節」のフィナーレまで、出演者がそれぞれの個性と実力を存分に発揮し、観客を魅了した。

美空ひばりさんのメドレーや「ハルノヒ」（あいみょんさん）、「涙そうそう」（夏川りみさん）など、披露した歌謡曲とポップスは計6曲。歌い手たちは民謡や新民謡とは違った歌唱や表情で舞台を盛り上げた。



男鹿市
高橋真理香さん(23)

姉妹3人で舞台に立つことは少なく、今回3人が一緒に出演でき、しかもミルハスという大きな舞台に立てて楽しかった。ポップスの曲を歌うのは民謡とは違う発声で心配だったが、思いは伝えられたと思った。これまで民謡を聴いたことのない職場の仲間や知り合いも来てくれた。民謡を身近なものとしてこれからも多くの人たちに伝えていきたい。



秋田市
高橋愛実香さん(20)

すごく緊張した。民謡、ポップス、さらには姉妹二人での進行と盛りだくさんの舞台になった。若い歌い手にスポットを当てた舞台で、民謡を発信していく若手として挑戦する機会をもらったと思う。新鮮な経験となった。これからいろいろな歌を歌って、若い人たちにアピールするとともに、広く民謡に親しんでもらえるように巻き込んでいきたい。



男鹿市
高橋杏里さん(14)

大きい舞台に姉妹3人で立ててうれしかった。若い人がメーンの機会は少ないのでそれに加わらせてもらったのは貴重な体験。フェスを告知するポスターやチラシ、新聞、テレビCMを見たという友人たちから声を掛けてもらった。多くの人に民謡を楽しんでもらいたいと思って歌った。民謡は若い人を含めどの世代にも通じるものがあるということをこれからも伝えていきたい。



大仙市
浅野沙樹さん(29)

先輩たちに囲まれたいつものような舞台ではなく、ポップスや歌謡曲も歌うということで、みんな舞台そでで悲鳴を上げるほど緊張していた。私も緊張で体も声も震えたが、とても楽しい貴重な経験でもあった。すごくいい企画だと思う。ポップスなどを交えることで、若い人たちに民謡を知ってもらい興味を持ってもらうチャンスになるかもしれない。



秋田市
倉田珠衣さん(29)

コロナの影響もあって満員の観客の前で歌うのは久しぶり。今春の出産後初めてでもあった。生まれた子が将来歌うようになるかどうかは分からないが、この公演で私の歌を聴かせることもできた。公演でポップスを歌ったのも初めてだったし、出演者の中でお姉さん格になったのも新鮮だった。もっと客席にいい歌を届けられるようこれから精進したい。



鹿角市
ライリー大仁さん(18)

今まで経験したことのないほど観客のノリがよく、促さなくても自然に手拍子が起きたのがうれしくて、とても気持ち良く歌わせてもらった。民謡好きが多かったのかもしれない。年齢の近い出演者だけのショーは初めてで、ほかの出演者の方々からいい刺激をもらった。民謡の節を出すことなくポップスをうまく歌っているのを聴いてすごいと感じた。



鹿角市
木村千翔さん(16)

観客の表情や会場の雰囲気から、この公演を楽しみにして来てくれたのだと、すぐに分かった。若手中心でポップスを交えた公演は、観客にとっても新鮮だったのではないかな。喜んでもらえて、歌うのも楽しかった。真理香さんが歌ったMISIAさんの「everything」がエネルギーで印象に残った。民謡を歌っているからこそできる歌唱だと感じさせられた。



舞台「ラビット・ホール」レビュー

再生へ踏み出す
家族描く

秋田市出身の演出家藤田俊太郎さんが手掛けた舞台「ラビット・ホール」が4月28日、あきた芸術劇場ミルハス中ホールで上演された。良質で洗練された本格的な会話劇を、秋田のここミルハスで鑑賞できたことは本当に幸せな時間であった。

東京・バルコ劇場に続いて2カ所目の上演。その後、福岡、大阪で上演された。わずか全国4カ所の中にミルハスが組み込まれたのである。秋田公演にミルハスのアドバイザーを務める藤田さんの熱い思いがあったことは想像に難くない。ホールを埋めた本県演劇ファンにとってはまさに最高の舞台となった。

「ラビット・ホール」は2007年にピュリツァー賞を受賞した戯曲。2010年にはニコール・キッドマンさんの製作、主演で映画化されている。

2000年代初頭のニューヨーク郊外に暮

らす家族の物語。夫婦は4歳になる息子を交通事故で亡くす。息子をしのびつつも前に進もうとする夫と、息子の思い出に触れることもできない妻。夫婦はしだいに心が離れていく。妻は母や妹の言動にもいらいらして深く傷つく。そんなある日、息子が事故にあった車を運転していた高校生から手紙が届く…。

物語は家族の日常会話の中で進む。登場人物それぞれが抱える苦しみ、悲しみそして痛みを丁寧に紡ぐ。そしてゆっくりとではあるが傷ついた家族の心が再生に向かって一歩を踏み出す姿を細やかに描いた。

悲しみに見舞われ、少々きつい表現の台詞が次々と観客に突き刺さるものの、時折喜劇的な台詞が盛り込まれ、観客が笑う場面も。それが緊張感漂う舞台に絶妙な「間」を取る形にもなった。

藤田さんは「俳優陣とディスカッションを重ねながら舞台を作り上げた」と語っている。主演の宮澤エマさんをはじめ5人の



劇中のベツカ（宮澤エマさん＝左）とハウイー（成河さん）
＝撮影・岡千里さん、バルコ提供

俳優陣は一言一句にまで気を配り、気持ちのこもった演技で観客を魅了した。会話劇の醍醐味を感じられる舞台であった。

「ラビット・ホール」を訳せば「ウサギの穴」。その穴の奥にはどんな世界が広がっているのか。劇中の高校生が小説に書いたように現在とは違う「パラレル・ワールド」が広がっているのだろうか。「もしあの時こうしていたら」「あんなことをしなかったら」―。人はこんなことを繰り返しながら生きているのかもしれない。それが要因となり、悲しみに打ちひしげられることもある。それでも人は悲しみや苦しみを乗り越えて前に進んでいくのである。

私たちはこれまでどんな生き方をして、これからどう生きていくのか。家族の再生と希望を描く舞台を通して、観客自身の生き方も問われる舞台であった。

Interview
インタビュー

舞台「ラビット・ホール」演出
藤田俊太郎さん（秋田市出身）

「カーテンコールで舞台に呼ばれ、本当にうれしかった。また秋田の皆さんと同じ時間を共有したいと思った」。「ラビット・ホール」終演後、演出の藤田俊太郎さんに秋田公演の感想などについて聞いた。

「県民と同じ
時間を共有」

―終演後、カーテンコールに呼ばれ、舞台に立ち、大きな拍手を受けた。

藤田 秋田の方は全国の中でも特に気持ちのこもった温かい拍手を送ってくれる。拍手の大きさとカーテンコールお客様の表情で観劇の充実が伝わる。古里秋田のミルハス中ホールで大きな拍手と笑顔に迎えられたことに感謝している。

―昨年12月には演出したミュージカル「ジャージー・ボーイズ」をミルハス大ホールで上演。今回はミュージカルとは違ったストレートプレイ、会話劇の上演だった。

藤田 観客が芝居を観て、言葉を一つ一つ丁寧に聞き、想像力を豊かに広げることが会話劇の魅力だと思っている。この作品は少し特異な構造を持っている。1幕冒頭、登場人物たちが何の話をしているのかわからず、少しずつ話の筋道が整い、夫婦の喪失感や当たり前だった日常を続けられなくなった家族の不在が明らかになっていく。観客の皆さんが、第1幕はこれからどういうストーリーが展開されるのかということに集中して下さっていた。第2幕は開放感を持って喜怒哀楽を、特に喜劇的なものを感じていただいた。客席には笑い声もあり、戯曲の魅力が伝わったのではないかと強く思った。



インタビューに答える藤田俊太郎さん

物語の舞台は2000年代初頭の話だが、今の時代に通じる作品となるよう俳優陣、スタッフとディスカッションを繰り返し、作り上げた。東京公演を終え、全国公演の始まりがミルハス公演だったが、東京のPARCO劇場とミルハスでは舞台の特色も違う。ミルハスでの公演を経て、お客様とともに舞台が進化できた2時間半だったとカンパニー一同強く感じている。

―ミルハス中ホールはどんな特色があると感じたか。

藤田 舞台空間の作りが会話劇を届けるには理想的なホールとを感じる。お客さんが声を出して笑ったり、感嘆したりする反応がとても近くに感じられ、その反応が舞台にも届き、俳優陣も芝居する気持ちののっていきける。ミルハス中ホールに合った作品をまた演出し、上演したいと思った。

―古里秋田での公演に知り合いもたくさん来ていた。

藤田 多くの方々にあいさつできればと

開場中、終演後にロビーに立った。友人、知人、これまでの人生の貴重な時間を共に過ごしたことのある大事な方々、さらには「ジャージー・ボーイズ」観劇を通じて応援してくださっている皆さんからたくさん声を掛けていただいた。皆さんの声援に支えられていることをあらためて感じた。ミルハス関係者、秋田公演の主催である秋田魁新報社、AAB秋田朝日放送、キョードー東北の皆さん、スタッフの皆さんに感謝したい。次につながる舞台になったと思う。これからも自分の演出作品を上演することで、県民のみなさんと同じ時間を共有していきたい。

ふじた・しゅんたろう

1980年4月24日、秋田市生まれ。2005年から2015年まで蜷川幸雄作品に演出助手として関わる。演出作品に「ジャージー・ボーイズ」「天保十二年のシェイクスピア」「NINE」など。読売演劇大賞の最優秀作品賞・優秀演出家賞（2017年）、優秀作品賞・最優秀演出家賞（2021年）など受賞。

ミルハスclub 入会受け付け中

ミルハスは、ミルハスclubの入会申し込みを随時受け付けています。DM（ダイレクトメール）会員とウェブ会員の2区分があり、それぞれの特典や会費、申し込み方法は下の表の通りです。DM会員は、情報誌などの送料に充てるため年会費をいただくほか、年度ごとの会員登録となっております。表を参考にどうぞご検討ください。

DM会員		※申込書はミルハスで配布しているほか、ウェブサイトからダウンロードできます		
特 典	情報誌「ミルハス・タイムズ」などの送付 ミルハスの話題を紹介する「ミルハス・タイムズ」（年4回発行）や、ミルハスで開催予定の公演のチラシなどを随時送付	指定公演チケットの先行販売 ミルハス主催事業など指定公演のチケットを、一般販売の前に予約・購入できる（販売枠が上限に達した場合は購入不可。1人当たりの購入枚数を制限する場合もあり）		
年会費	1,000円	情報誌の送付などに充てる。管理事務室での現金払いか指定口座への銀行振り込み	有効期間	当該年度の末日まで 会員は年度ごとに更新
申し込み方法	所定の申込書※に必要事項を記入し、管理事務室へ持参または郵送	会員証	有	

ウェブ会員		ミルハスで開催される公演の日程、チケット発売・料金などの情報を希望者に随時配信		
特 典	メールマガジンの配信	指定公演チケットの先行販売		
会 費	無 料	有効期間	期限なし	
申し込み方法	ウェブサイトで手続き	会員証	無	

●特典の内容、申し込み方法など

チェコのトランペット奏者ミロスラフ・ケイマルさん

世界を魅了した音色響かす

教え子の扇田さん(美郷町)らと共演

1970年代からチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席トランペット奏者を長く務めたミロスラフ・ケイマルさん(81)が、持ち前のやわらかく力強い音色をミルハスで披露した。かつての教え子で美郷町在住の扇田泰子さん(39)に招かれ、4月29日の公演に出演。小ホールAの座席を埋めた約200人の聴衆を魅了した。

扇田さんら3人との共演でシューベルト「アヴェ・マリア」、アーバン「ペニスの謝肉祭による変奏曲」など11曲を披露。ケイマルさんはフリーゲルホルンやピッコロトランペットも使い6曲を演奏した。

ケイマルさんはチェコ生まれ。10歳でトランペットを始め、21歳のときプラハ音楽院へ進み、プラハ芸術アカデミーでも学んだ。1970年にチェコ・フィル入りし2年後、首席奏者に。これまでヨーロッパを中心に約20カ国で演奏し世界の名だたるオーケストラと共演した。

公演で披露した「星をのんだ少年」は、宮崎駿監督による映画「ハウルの動く城」の挿入曲で、そのフリーゲルホルンは作曲した久石譲さんに乞われケイマルさんが演奏したものだ。

扇田さんは大館市出身で小学生のころからトランペット演奏に挑み、高校卒業後にチェコへ。プラハ音楽院などで学んだ滞在11年間のうち8年間、ケイマルさんに師事した。2014年に帰国した後に美郷町へ移り、トランペット指導や演奏会企画に当

っている。今回の公演翌日には同町で地元の子供たちとケイマルさんが交流する場も実現。「『世界』に触れた子供たちのさらなる挑戦につながればうれしい」と話した。



演奏を披露するケイマルさん

—ケイマルさんにとって音楽とは？

聴く人の内面にそれぞれ異なる何かを生み出す、不思議で特別な芸術。私はクリスマスチャンドが、西洋音楽、クラシック音楽について言えば「上から降りてくるもの」という意識がある。美しいものとつながる感覚だ。仲間の一人は「音楽は人生をよきものにする」とよく言う。

日本は世界でも有数の音楽好きの国だ。各学校に吹奏楽部があり多くの子供たちが演奏に親しめるし、世界中から優れた音楽家たちが招かれ演奏する。聴衆の耳は肥えて、演奏者には緊張感が生まれる。日本人は音楽を大切にすることで「よきもの」を得ていると思う。ずっとそうであっ

てほしい。

—ミルハスがその役に立つとすれば？

音響の良さは聴衆の音楽体験を豊かにする。豊かな体験が増えれば、人々は音楽というものをより豊かなものとして捉えるようになる。日本には建築デザインに凝ったホールが多いが、それには大切な意味がある。ミルハスのデザインも、訪れた人たちの気分を大いに高揚させてくれるはずだ。



ステージでケイマルさん(左)を紹介する扇田さん



公演翌日の体験型講座後、ケイマルさん(右)のサインを求めて集まる子供たち(美郷町の名水市場湧太郎)

Mini Interview

公演翌日、ケイマルさんは美郷町六郷の名水市場湧太郎で開かれた吹奏楽の体験型講座で講師を務め、地域の子供らと交流。講座終了後、ケイマルさんにインタビューした。

—ミルハスでの公演はどうだった？

小ホールの音響が素晴らしく、聴衆の雰囲気もよくて幸せを感じられた。

—秋田には過去にも来てくれている。

初めて来たのは50年近く前。1974(昭和49)年のチェコ・フィル公演だった。今回、新たに建てられたミルハスの素敵なデザインに感動した。

2023年 7月・8月・9月

公演・イベント情報

7/3(月)

●大ホール
舟木一夫
コンサート2023



14:00開演

【お問い合わせ】チケットパートナーズ
TEL:022-222-2033(平日11:00~16:00)

7/8(土)

●大ホール
第2回秋田・潟上国際音楽祭
スロヴァキア・フィル
ハーモニー管弦楽団



15:00開演

【お問い合わせ】コンサートイマジ
TEL:03-3235-3777 ※日曜祝日除く

7/9(日)

●大ホール
HATA MOTOHIRO CONCERT
TOUR 2023 -Paint Like a
Child-supported
by 日本セーフティー



18:00開演

【お問い合わせ】ノースロード・ミュージック秋田
TEL:018-833-7100(平日11:00~16:00)

7/15(土)

●大ホール
第2回秋田・潟上国際音楽祭2023
千田桂大と仲間達 プラームス生誕
190周年 オールプラームスコンサート
×文化トークショー-with橋本五郎



14:00開演

【お問い合わせ】実行委員会事務局
TEL:018-874-9215

7/16(日)

●大ホール
第2回秋田・潟上国際音楽祭2023
ヴィットリオ・フォルテ ピアノリサイタル
-欧州を席巻するピアニストが繊細な技巧で奏する美しき「歌」の世界-



14:00開演

【お問い合わせ】実行委員会事務局
TEL:018-874-9215

7/17(月・祝)

●大ホール
YUZU TOUR
2023 Rita
-みんなとまたあえる-
※チケット完売



17:30開演

【お問い合わせ】キョードー東北 TEL:022-217-7788
(平日13:00~16:00、土10:00~12:00 ※祝日除く)

7/19(水)

●大ホール
天童よしみコンサート
2023
~あなたの大切な街へ、
50年の感謝を届けたい~



①13:30/②17:30開演

【お問い合わせ】世界芸能
TEL:022-222-4997(平日9:30~17:00)

7/31(月)

●大ホール
リアル恐竜ショー
恐竜パーク



①12:00/②15:00開演

【お問い合わせ】キョードー東北 TEL:022-217-7788
(平日13:00~16:00、土10:00~12:00 ※祝日除く)

8/2(水)

●大ホール
劇団文化座公演
「旅立つ家族」



14:00開演

【お問い合わせ】秋田魁新報社事業局企画事業部
TEL:018-888-1857(平日9:00~17:00)

8/3(木)

●大ホール
純烈コンサート2023
なんてったってスーパー
銭湯アイドル!



①14:00/②18:00開演

【お問い合わせ】チケットパートナーズ
TEL:022-222-2033(平日11:00~16:00)

8/4(金)~16(水)

●中ホール
祭シアター HANA



※期間中、8(火)、9(水)、15(火)は休演

開演は日によって11:00、16:00、19:00のいずれか

【お問い合わせ】インフォメーションデスク(わらび劇場内)
TEL:0187-44-3915

8/5(土)

●大ホール
M-1ツアースペシャル
2023秋田公演



①11:30/②15:00開演

【お問い合わせ】秋田朝日放送事業部
TEL:018-888-1505(平日9:00~17:30)

8/10(木)

●大ホール
ROYAL STARS
GALA



18:00開演

【お問い合わせ】S Art Production
E-mail: info@sartproduction.jp

8/21(月)

●大ホール
クラシック・キャラバン2023
クラシック音楽が世界をつなぐ
~輝く未来に向けて~
華麗なるガラ・コンサート



14:00開演

【お問い合わせ】秋田魁新報社事業局企画事業部
TEL:018-888-1857(平日9:00~17:00)

9/2(土)

●大ホール
明治大学マンドリン倶楽部
秋田演奏会



16:00開演

【お問い合わせ】実行委員会
E-mail: meidaimankra.akita@gmail.com

9/3(日)

●大ホール
ジュジュ苑スペシャル「スナック
JUJU2023」~47都道府県出店!!
“あのママ”がJUJU20周年を
勝手に前祝い全国ツアー~



18:00開演

【お問い合わせ】キョードー東北 TEL:022-217-7788
(平日13:00~16:00、土10:00~12:00 ※祝日除く)

9/18(月・祝)

●大ホール
ミルハス開館1周年記念公演
藝大フィルハーモニア
管弦楽団



14:00開演

【お問い合わせ】あきた芸術劇場ミルハス
TEL:018-838-5822

9/20(水)

●中ホール
あきた寄席2023



18:30開演

【お問い合わせ】弘前芸術鑑賞会
TEL:0172-40-4082

※ 誌面の都合上、公演・イベントのすべては掲載しておりません。

情報は6月20日時点のもので、「チケット完売」の記載がなくてもお読みになった時点で完売となっている場合があります。ご了承ください。

Mille Has information

練習室、創作室、研修室をご利用ください

ミルハス1階には県民・秋田市民の身近な文化芸術活動の場となる練習室(9室)、創作室(5室)、研修室(3室)があります。楽器・ダンス・合唱の練習、芸術作品の制作・展示、会議や打ち合わせなどに幅広く対応します。

利用に際しては、利用者登録後に希望の施設・日時などを申請します。ミルハス公式ウェブサイトからシステムを通じて手続きできるほか、所定の用紙を郵送、FAX、メール、持参して申し込むこともできます。

各施設の利用時間は午前9時から午後11時。予約は研修室、創作室が利用希望日の2カ月前の月の初日から、練習室は1カ月前の月の初日から受け付けます。料金は施設や時間帯によって異なります。

詳しくはミルハスの公式ウェブサイト(URL <https://akiat.jp>)をご覧ください。電話(TEL018-838-5822)でお問い合わせください。

施設	用途・設備	定員
練習室	1 合唱練習など アップライトピアノを設置	35人
	3	10人
	2	30人
	4 バンド練習など ドラムセット、ギター・ベースアンプ、キーボードを常設	6人
	5	8人
	9	6人
	6 ダンス練習など ダンスや演劇などに対応。壁には大きな鏡を設置。 ※3室ともリノリウム床を傷つけないよう内履き持参となります。7はアップライトピアノを設置	12人
	7	16人
創作室	8	13人
	1 作品制作・展示などに活用できる。各室の間の仕切りを取り外してつなげることが可能。廊下側の仕切りを取り外してオープンスペースとしての利用もできる	10人
	2	8人
	3	12人
	4、5両室とも和室。茶道・華道・伝統芸能の講習会などに利用できる	8人 6人
研修室	1 各種研修会や会議などに最適なスペース。プロジェクターやスクリーン表示に対応。2と3の間の仕切りは取り外し可能で、両室をつなげることができる	各8人
	2	
	3	

※定員はいずれも目安

sensyu-komichi



時代は昭和40年代。父親は職場の同僚たちと一杯やった後、そのまま自宅へ連れてくるが多かった。子ども心に嫌だなあという気持ちがあった。興が乗ってくると、必ず民謡が歌われた。積極的に聴いていたわけではないが、今も歌詞、節回しが

耳に残っているから不思議である▼あきた芸術劇場と秋田魁新報社による「#あきた民謡フェス」が5月に開かれた。魁新報が1月から展開している「#あきた民謡」と連動した企画である。紙面で紹介された歌手を中心に、10代、20代の若手が出演した▼いずれも各種大会で優勝経験を持つ、まさに次代の秋田民謡界を担っていく若手である。堂々とした歌唱からは秋田民謡をアピールし、継承していくとの覚悟がうかがわれ、観客から大きな拍手を受けた▼今回のフェスの特徴に、あいみょんさんの「ハルノヒ」、MISIAさんの「everything」など民謡以外のポップスが披露されたことが挙げられる。民謡歌手

は他のジャンルの曲も歌えるという新たな一面を引き出せたと思う▼来場者にアンケートを実施したところ、興味深い結果が出た。60代以上からは「民謡だけを聴きたかった」との声が多かった一方、50代以下の若い世代からは「ポップスも聴けて良かった。民謡が身近に感じられた」との反応が多かった。新たなファン開拓にはいろいろな方策があることを示せたのではないかと▼終演後、劇場スタッフに声を掛けてくれた女性がいた。「私は99歳だけど、100歳になる来年もぜひ来たい。楽しみにしています」。多くの人の協力を得て開催した民謡フェス。この言葉を聞いてこれまでの苦勞が報われた気がした。



あきた芸術劇場
Akita Arts theatre
ミルハス

<発行>あきた芸術劇場ミルハス
〒010-0875 秋田市千秋明徳町2番52号
TEL.018-838-5822 FAX.018-838-5825
E-mail/info@akiat.jp <https://akiat.jp>

